

もっと知りたい!!

FILE 10

病院のこと・先生のこと。

医療法人社団

みずたに皮フ科

皮膚科



〒763-0082 丸亀市土器町東3丁目254-2
TEL 0877-58-0898
URL <https://mizutani-hifuka.jp>



みずたに皮フ科
院長

水谷友哉 先生

もし、医師になっていなかったら？

宇宙工学者

先生が実施している健康法は？

適度な仮眠

当院に期待すること

- ・断らない救急医療
- ・皮膚科の常勤化

どっち？

犬派

猫派

朝食は

和食

洋食

休日は

インドア派

アウトドア派

好きなもの(こと) Best3!

1 キャンプ

2 クイズ・謎解き

3 猫

フリースペース

いつも紹介患者さんの受け入れありがとうございます。
これからもよろしくお願いします。



独立行政法人 国立病院機構

四国こどもとおとなの医療センター

〒765-8507 善通寺市仙遊町 2-1-1 TEL 0877-62-1000
<https://shikoku-mc.hosp.go.jp>
交通機関 ▼善通寺 I.C より車で 5 分
▼ JR 土讃線善通寺駅下車徒歩 25 分



四国こどもとおとな



コロナ明け、6年ぶりの病院フェスティバル

四国こどもとおとなの医療センター 院長 前田 和寿

地域の先生方には、いつも患者さんを御紹介いただき、誠に有り難うございます。

今年も早いもので残すところあと1ヵ月となりました。当院の本年度のトピックは、6年ぶりに病院フェスティバルを開催したことであります。準備を行った職員も、長期間のブランクのため緊張と不安な気持ちでいっぱいのまま、開催することになりました。しかし当日はあいにくの天気にもかか

わらず、1100人以上のお客様が来てくださり盛会となりました。これは、当院職員のチームワークと密なコミュニケーションの賜と思っています。私たちは地域の医療関係者および患者さんとのコミュニケーションをとることにより、良質な医療を提供していきたいと考えています。最後に、これからも地域の先生方のお役に立てるよう努力をして参りますので、ご指導ご協力を何卒よろしくお願いします。

倫理研修『利他行・無財の七施』

四国こどもとおとなの医療センター ME 久保田博隆

小野幼稚園 園長であり京都山科 真言宗善通寺派の上原雅明僧正に利他行・無財の七施について講演していただきました。

二利双修とその重要性、自利と利他、そして七つの施しの内容についてをお釈迦様や弘法大師空海の話や幼稚園での話を織り交ぜつつお話していただきました。

自身の幸福のための修行、それらを他者へと施す行い。そして利他とは感謝を求めるものではなく自分自身の多となる考え方で医療現場でも多く通ずるものがありました。

医療に携わる一スタッフとして考えを見直す機会となり大変有意義な時間となりました。



オブザーバー

上原 雅明 僧正

四国こどもとおとなの医療センター

令和7年度 倫理研修

日時：令和7年11月14日(金) 15:00~

場所：4階こもれびホール(後日、e-learningあり)

『利他行・無罪の七施』

講師：総本山善通寺 上原 雅明 僧正

対象：全職員(必須研修)

利他行は、他人の喜びや幸せを追求する行為であり、結果として周囲の人々も幸福にできるとされています。また、自分の幸福度向上にもつながると考えられています。

無財の七施とは、財産がなくても実践できる7つの施しを指し、仏教における布施行の一種で、見返りを求めずに行うことで、菩薩の精神を養うことにつながるとされています。



特集

いたみ診療の 職種・診療科・地域の連携を 目指して



四国こどもとおとなの医療センター
疼痛医療センター科、リハビリテーションセンター

川崎 元敬

平素から大変お世話になっております。

当院では、さまざまな痛みに対する診療を実践するために、2018年から疼痛医療センター科が設立されました。その年の12月に疼痛医療センター科長として赴任し、2019年4月から「いたみ外来」を開始しております。この6年間に近隣の諸先生には多くの患者様をご紹介いただきまして深く感謝申し上げます。当時、国立病院機構病院では集学的な痛み診療を行うセンター化（多職種・多診療科が協力・連携して、痛みの診療を実践する診療部門）は全国で初めての試みであり、現在に至っても理想的な診療体制の構築はまだまだ道半ばではございますが、厚生労働省慢性の痛み政策研究事業から、集学的痛みセンターの施設認定を受けて、更なる診療体制の充実を図るべく、急性および慢性疼痛やがん性疼痛の診療を続けております。

痛みについて

国民生活基礎調査によれば、病気やけが等で自覚症状のある人の割合の上位は、1位：腰痛、2位：肩こり、3位：手や足の関節が痛むであり、長引く痛み（慢性疼痛）を患っている患者数は2000万人を超えると推計されていることから、痛みは国民のありふれた症状と言えます。痛みの診療

に関しましては、急性痛は各診療科で対応すべき症状の一つですが、慢性疼痛は近年、2018年にWHOが公表した国際疾病分類第11版において、疾病として扱われるようになってきました。その背景としては、慢性疼痛は痛みの問題だけでなく、心身の活動性の低下を伴う生活の質の低下などの別も問題が加わるため、集学的な専門的診療が必要とされ始めたためと思われます。当院では、そのような専門性のある診療体制を構築しながら、地域の先生方との連携の充実を目指しております。

診療経歴

私は整形外科医として痛みの診療に携わっております。整形外科医になったきっかけは、運動器に痛みを抱える多くの患者を手術によって回復させてあげられることへの憧れと、手術適応のない患者に対しては、効果の乏しい内服薬や注射などの漫然とした保存治療が継続されている状況を少しでも改善させたい想いからでした。

そのため、医師となって痛みの研究としては、内臓痛や下行性疼痛調節系の基礎研究を行いながら、関節痛へのリドカイン注射、骨転移や運動器の疼痛性疾患に対する集束超音波治療の臨床研究に携わりながら、整形外科医

としては、脊椎脊髄外科を専門として、その分野の痛みを中心に診療を行ってきました。さらに、前職の高知大学医学部整形外科では、骨軟部腫瘍外科のチーフとして約14年間、大学病院で腫瘍の診療に携わりながら、がんの骨転移診療や緩和ケア医療を手掛けていました。これらの診療と並行して、慢性疼痛診療に従事しながら培ってきた痛み診療のノウハウを当院で実践しております。

当院のいたみ診療の取り組み

現在の当院の診療の取り組みについてご紹介させていただきます。

初診時には、痛みの評価においては、簡易疼痛問診票に加えて、知覚・痛覚定量分析装置を用いて客観的な定量評価を行い、それに加えて身体・心理・社会面の活動性などの多面的評価をiPadを用いた電子問診票で取得し、身体診察や各種の検査によって、器質的病態の有無を再度精査しております。

治療におきましては、薬物治療の開始や調整、透視下やエコーガイド下の各種の神経ブロック（パルス高周波法や高周波熱凝固療法を含む）、認知行動療法の要素を取り入れた運動療法などを実施できる体制を整えました。長引く痛みを有している方々は、身体面だけでなく心理社会的問題を抱えていることがあるため、治療に難渋する場合には、関係診療科や治療に携わる医療従事者と話し合う院内痛み診療カンファレンスで治療方針の見直しや情報共有を行うようにしております。このような患者さんは、当院だけでは対応困難なこともありますので、県内外にかかわらず、患者さんに適した連携医療機関への相談や紹介を行うこともあります。さらに痛みの入院診療では、検査・教育・運動療法などの短期入院や、必要に応じて低侵襲手術も実施しております。特に、脊椎脊髄外科専門医としての知識や技術を生かして、一般的な脊椎脊髄外科手術以外に、難治性神経障害性疼痛への脊髄刺激療法や硬膜外腔癒着剥離術、脊椎圧迫骨折後の癒合不全への経皮的椎体形成術などにも注力しております。

また、院外活動としまして、慢性疼痛診療システム構築を目指した教育・普及・啓発を目的として厚生労働省からの委託事業を赴任当時から当院で引き受けております。現在も慢性疼痛診療システム均てん化等事業（四国ブロック）のもと、医療者向けの講演会や研修会を企画・開催しておりますので、ご都合がよろしければ是非ご参加ください。

当院のいたみ外来日は、火曜日、木曜日ですが、状況に応じて柔軟に対応させていただ

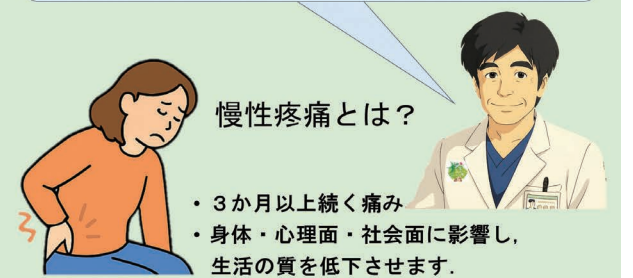
きます。長引く痛み、また、脊椎脊髄疾患、骨軟部腫瘍や骨転移でお困りの患者さんがいらっしゃるようでしたら、是非ご相談いただければ幸甚に存じます。今後ともご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、引き続きご助言お力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



ながびく痛み、 我慢しないで

～専門的な診療であなたの痛みに寄り添います～

自覚症状のトップ3は、腰痛、肩こり、手足の関節の痛みです。急性痛は、体の警告信号です。異常がないか調べてみましょう。慢性疼痛は、病気として扱われていて、適切な診療が必要です。痛みを多角的に評価して、あなたにあった治療法を提案します。



慢性疼痛とは？

- ・3か月以上続く痛み
- ・身体・心理面・社会面に影響し、生活の質を低下させます。
- ・約5人に1人が困っています。

対象となる症状は？

- ・ながびく腰痛や肩こり
- ・神経障害性の痛み
- ・がんに関連した痛み
- ・怪我の後や手術後の痛み
- ・筋骨格系の痛み
- ・全身の痛み など

診療内容は？

- ・痛みの多角的評価
- ・痛みの教育・生活指導
- ・内服薬の処方・調整
- ・各種注射
- ・リハビリテーション
- ・多職種による集学的診療

治療目標：

- ・痛みのセルフコントロール
- ・心身の活動性を回復させて人生の質を向上させること



四国こどもとおとなの医療センター 疼痛医療センター科

